平成12年6月30日発行

会員報

会員登録制度特集

発行 財団法人日本ソフトテニス連盟

ご挨拶

会長　海部俊樹

会員の皆様にはますますお元気でご活躍のことと存じます。

（財）日本ソフトテニス連盟の会員登録制度は各都道府県連盟・日本学連・高体連・中体連ならびに多くの当連盟関係者のご協力により平成11年度から実施されました。この会員登録制度はソフトテニスの一層の普及発展を目指し、組織の基盤確立と愛好者お一人一人の負担にもとづく財源により普及目標にそった事業推進の拡充を図るために設けられたものであります。おかげさまで初年度の平成11年度は別表のように多くの皆様に会員として登録いただきました。特に高体連、中体連ソフトテニス部に関しましては数の上で日頃部活動をしている部員のほぼ全員が登録される結果が得られ、ソフトテニスの基盤が中学校、高等学校の部活動によって支えられていることを改めて理解いたしました。今後は会員の一人一人がソフトテニス界を支えていく現状を再認識し、会員登録制度発足の趣旨にそって当連盟の基本方針である「競技スポーツとしての一層の向上」「生涯スポーツとしての一層の普及」を具体的に推進するために事業を推進してまいる所存です。

平成11年度会員登録状況

登録会員数

459,971名

- 一般……………………………47,347名
- 大学生（学連）…………………4,663名
- 高校生（高体連）………………77,818名
- 中学生（中体連）………………321,317名
- 小学生……………………………8,826名

登録団体数

14,636団体

- 一般……………………………3,022団体
- 大学生（学連）…………………303　校
- 高校生（高体連）………………3,588　校
- 中学生（中体連）………………7,310　校
- 小学生……………………………413クラブ

会員登録料

88,564千円

- 一般……………………………47,323.5千円
- 大学生（学連）…………………2,331.5千円
- 高校生（高体連）………………38,909　千円

会員登録制度について

初年度においては趣旨の徹底においても、登録手続きにおいても未熟な面があったと思われますが、総体的には関係者のご努力で下表のとおり予定に近い成果となりました。特に中体連、高体連については公表されている数とほぼ同数の登録人員であったことは関係者のご理解とご努力の賜物であります。しかしながら個々に会員登録状況をみますと中学校の一部に全く未登録の県があることや一般に関して一部に極めて登録者の少ない県があることは努力している他の県からの不公平感はまぬがれず残念なことであります。今後は大会等事業参加資格の徹底や、種々の面で会員数に応じたメリットが出るよう図らねばならないと考えます。

登録者数の推定と実績

（注）推定値は平成11年度支出予算上で用いた予定値

	推　定	実　績
一　般	50千名	47千名
大　学	6千名	5千名
高　校	60千名	78千名
中　学	130千名	321千名
小　学	6千名	9千名

会員登録制度の趣旨、目的について

会員登録制度は日本ソフトテニス連盟およびその加盟団体（下部組織含む）における会員組織を確立し、会員およびその所属団体の把握を明確にすることにより、普及活動の基盤として役立てるとともに、合わせて各組織の健全な財政に寄与させるために実施します。

会員組織の確立

会員組織をきちんと整備することは競技団体が普及活動および事業を推進する上で基本的な要件であると考えますが、従来ともするとこれが徹底されない面もあったと思われます。もちろん会員登録制度は会員の管理を主眼とするものではなく、重要なことは会員組織の掌握によって各年齢層に亘り、従来以上にきめの細かい指導普及体制（システム）づくりや普及活動結果の評価が可能となり、そのことにより組織の活性化が図れることです。

日本の競技団体では日本体育協会のスポーツ憲章に基づく競技者規程（従来のアマチュア規程）が定められており、すべての競技者は競技団体に登録され、かつその活動は規程の定めに従わなければならないことがうたわれておりますが、そのことからも会員登録制度は本来必要なものといえます。

財政への寄与

競技団体が会員からの会費などを財源として運営されていることは通常であり、各都道府県連盟や市区町村連盟などでもいろいろなかたちで会費制が導入されております。日本ソフトテニス連盟では現在加盟団体単位で一括会費になっていますが、会員登録制度はこれに加え登録料として個人会費制を導入するものです。そのことによりソフトテニスの一層の普及のために行う諸事業の財源に役立てたいと考えております。諸事業の内容については日本ソフトテニス連盟の新長期方針に示されておりますが、それらをより具体的にかつ強力に推進するためにはどうしても新たな財源が必要です。日本ソフトテニス連盟が　会員登録制度の実施による財源をもとに今後積極的に取り組んでいきたいと考えている重点目標は次のとおりです。

当面の重点目標

1 国際普及を促進する。IOCの承認競技となり、さらにはオリンピックへの参加を目指す。（国際性の向上）

2 選手と観客がともに感動をおぼえるような大会を実施する。（競技性の向上）

3 ジュニア層から社会人層までが共有できる指導システムを構築してレベルの高い選手を育成する。またそれを実現できる指導者を養成する。（競技力の向上）

4 生涯スポーツとしてすべての年齢層に対する普及を促進する。（大衆化の促進）

5 テレビ、新聞等マスコミ対応を強化する。（広報活動の強化）

会員登録料による財源は主な使途（平成11年度）

国際性向上のために

1 カリフォルニア州立大学ノースリッジ校においてソフトテニス正課授業を実施

平成10年7月から1年間、上記大学でソフトテニスが体育実技の正課授業として実施されました。

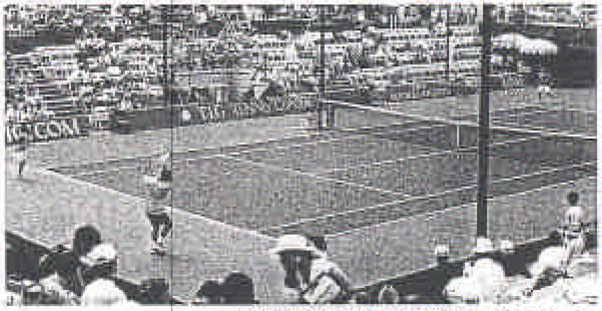
2 イタリアローマを中心とするヨーロッパへの普及を推進

ローマのラツィオクラブを中心にイタリアソフトテニス連盟が設立され、イタリアでの普及が促進されました。またあわせてオーストリア・ウィーンでもデモンストレーションが行われました。

イタリア選手とともに（ローマ）

3 アメリカカリフォルニア州においてデモンストレーション、クリニック等普及事業を実施

平成11年8月にアメリカカリフォルニア州ラコスタで開催された女子テニスのビッグトーナメントの大会期間中ソフトテニスのPRブースが設置され観衆や選手の関心を集めました。また日本から派遣された選手がセンターコートの大観衆を前にソフトテニスの模範プレーを行い、盛大な声援を受けました。


アメリカ カリフォルニアでのデモンストレーション

4 モンゴル国際大会へのジュニア派遣による中央東アジアでの普及促進

5 第11回世界選手権大会（中華台北）盛り上げのための各国支援

第11回世界ソフトテニス選手権大会

6 用具用品の各国支援
平成11年度は次の各国に用具用品を寄贈しました。
アメリカ、イタリア、オーストリア、パキスタン、モンゴル、タイ、インドネシア、マレーシア、中国

7 第4回アジア選手権大会の日本開催（平成12年度）
平成12年11月1日から5日まで佐賀県総合公園運動場庭球場（佐賀市）において開催されます。

競技性向上のために

1 大学選手権、高校選手権などへのカップの交換寄贈
古くなり損傷のはげしいカップの交換を行いました。今後も順次行う予定です。

2 小学生選手権大会の開催地関係費増額（平成12年度）

3 全会員に大会時における傷害保険加入
公式大会における傷害保険を全会員に付帯しました。平成11年度は30都道府県から事故報告があり、傷害保険金請求額は7,821千円（未払金を含む）でした。（支払保険料総額は16,034千円）
なお事故にあったときの連絡先は次ぎのとおりです。
興友株式会社　TEL0120-503-630

競技力向上のために

1 ナショナルチーム強化合宿の充実（男女とも4回実施、平成12年度は各5回を予定）
ナショナルチームの合宿を増強しました。平成12年度は更に強化します。

2 ジュニアナショナルチームの新設と強化合宿の実施（男女とも1回実施、平成12年度は各2回を予定）
ジュニア選手の育成の取り組みを強化するためジュニアナショナルチームを編成し合宿を実施しました。平成12年度は更に強化します。

3 国際大会代表選手団メンバーに対する分担金の廃止

4 公認コーチ養成専門科目講習会の実施および受講者への旅費一部補助
指導者育成の一環として上記講習会の受講者に補助を行いました。

大衆化促進のために

1 生涯スポーツ委員会を中心に各種調査の実施・報告および普及対策の検討強化
普及促進のため平成11年度は各種調査を行い、具体策の検討に取り組みました。

2 全国小学生指導者研修会の実施
全国都道府県の代表者が参加し、国立オリンピックセンターにおいて研修会を実施しました。この全国研修会は小学生、中学生、高校生指導者の順で毎年行っています。

3 小学生選手権大会の選手旅費補助増額（平成12年度）
評議員会で強い要望のあった小学生の旅費補助について平成12年度より対象人数を増加しました。

4 地域グループ育成費（支部への補助）を定額方式から一般会員数比例方式に変更（平成12年度）

広報活動強化のために

1 主要大会のテレビ放映実施（スポーツ衛星放送チャンネル「ガオラ」のレギュラー番組）

放送月	大　会　名
4	全日本高等学校選抜大会
5	ワールドクィーンズカップ全日本女子選抜大会
6	世界選手権大会予選会
7	全日本学生王座決定戦
8	全日本小学生選手権大会
9	総集編（前半）
10	天皇賜杯・皇后賜杯全日本総合選手権
11	国民体育大会少年男女
12	日本リーグ
1	世界選手権大会
2	ショーワカップ東京インドア大会
3	全日本インドア選手権大会

その他の費用

1 日本学連への還元金（大学生登録料の50%）

2 高体連ソフトテニス部への還元金（高校生登録料の10%）

3 会員登録証など各種帳票作成、コンピュータ処理などの事務費

4 支部国際分担金廃止

会員登録数

		一般		小学生		中学生		高校生		合計
1	北海道	207	2772	15	195	290	8507	159	3108	14582
2	青森	56	757	2	44			51	1072	1873
3	岩手	62	1490	11	130	163	6530	95	2773	10923
4	宮城	78	723	9	134	99	4131	93	1451	6439
5	秋田	11	521	1	29	79	3687	50	1158	5395
6	山形	31	534	8	185	73	3751	41	807	5277
7	福島	64	656	7	152	143	7787	103	1735	10330
8	茨城	51	696	4	112	250	14234	90	1732	16774
9	栃木	43	500	4	39			48	821	1360
10	群馬	42	1070	6	219	158	7968	62	1460	10717
11	埼玉	298	5456	26	748	242	11152	153	4055	21411
12	千葉	124	2171	10	185	346	19650	145	2993	24999
13	東京	164	2950	8	182	530	14102	248	3622	20856
14	神奈川	108	1274	8	232	236	11525	157	2721	15752
15	山梨	50	755	8	177	77	3514	36	925	5371
16	新潟	76	942	18	368	160	7229	81	1595	10134
17	長野	3	36					80	1418	1454
18	富山	21	485	8	166	57	2794	34	1065	4510
19	石川	51	769	16	385	78	4571	49	1037	6762
20	福井	65	707	4	82	52	2644	19	663	4096
21	静岡	118	1699	11	383	407	17336	95	1703	21085
22	愛知	27	2319	6	254	358	22672	149	4750	30031
23	三重	42	544	7	151	146	7984	53	1079	9758
24	岐阜	55	798	17	400	147	9116		1624	11938
25	滋賀	23	482	7	226	75	2477	42	1496	4681
26	京都	106	956	16	370	143	6739	61	1417	9482
27	大阪	108	2063	8	176	344	16998	209	3313	22550
28	兵庫	88	1433	7	157	562	22227	279	4948	28765
29	奈良	43	888	8	210	65	3292	37	921	5311
30	和歌山	67	794	4	102	120	5623	31	827	7346
31	鳥取	29	418	21	364	103	2458	49	659	3899
32	島根	50	561	5	173	61	2717	36	899	4350
33	岡山	80	755	11	251	154	7683	80	2029	10718
34	広島	73	547	12	259	38	1210	99	2070	4086
35	山口	97	1278	6	205	148	7620	68	1640	10743
36	徳島	24	447	7	85	67	2905	35	619	4056
37	香川	19	250	4	109	59	3352	33	897	4608
38	愛媛	28	244	7	118	106	5876	83	1179	7417
39	高知	29	258	5	68	51	1444	29	480	2250
40	福岡	47	526	1	4	423	13330		2127	15987
41	佐賀	29	406	9	144	83	3293	49	788	4631
42	長崎	43	1141	2	90	178	7754	72	2108	11093
43	熊本	41	813	8	96	61	2255	35	1106	4270
44	大分	51	545	9	130	89	3055	9	168	3898
45	宮崎	14	775	12	207	94	3352	49	1029	5363
46	鹿児島	86	1077	30	330	195	4773	85	1261	7441
47	沖縄		46					27	470	516
48	日本学連									4663
50	日本連盟		20							20
	合計	3022	47347	413	8826	7310	321317	3588	77818	459971

左側…団体数
右側…人　数